

鬼怒中学校 生徒指導通信 No. 9

平成30年3月15日(木)

宇都宮市立鬼怒中学校



早春の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

3年生が無事卒業を迎えました。3年間を振り返り、感謝の気持ちを持ちながら、未来へと羽ばたいていきました。1, 2年生は先輩たちの晴れ舞台を、真剣な態度で祝うことができました。

いよいよ、この一年間のまとめをし、次年度にいいスタートを切れるように準備をする時期となりました。多感な時期ではありますが、子どもたちの健やかな成長を目指して、学校と家庭とが協力していけると良いと思います。

今回は、「教育課程」と「教育家庭」という言葉について書いてみたいと思います。

○「教育課程」と「教育家庭」

「教育課程」とは、法令や学習指導要領にもとづきながら、本校の教育目標達成のため、教育内容を系統立てて配列したもの、全教育活動の総合的な指導計画をいいます。1月から3月あたりは、今年度の反省等をもとに教育課程の見直しを行い、来年度の教育課程を作成する時期です。先生たちは、「鬼怒中がさらに良い学校になるようにするには、どうすればいいのか」について、それぞれの立場で考え、新たな目標や計画を立てているのです。

さて、もう一つの「教育家庭」とは、私が勝手に作った言葉です。いわゆる家庭の教育方針や計画、その具体策みたいなものだと思ってください。生徒たちは、中学校に入学すると、「中学生になって」という作文を書きます。新2年生は「中学2年生になって」、新3年生は「中学3年生になって」という作文を書きます。新しい立場になって、これからの1年間を想像し、どんな1年間にしていこうか、何を目標にしようか、どんなことを頑張っていこうかなどを書き出し、決意文とするのです。

そこで、保護者の皆さんにも、「平成30年度 ○○家の教育家庭」を作成していただきたいと思うのです。「中学2年生の母親になるにあたって」「中学3年生の父親になるにあたって」などの作文を書き、家族で持ち寄って見せあい、話し合いの材料にするのもいいでしょう。夫婦や家族が、同じ方向を向いて、共通の方針を持って子育てに当たっていくことは、とても大切なことです。そのためにも、まず子どもの実態を理解しなければなりません。方法は、直接子どもとたくさん話をしたり、一緒に過ごしたり、部活動の様子などを見に行ったりしていくことです。そのうえで、「今年度はこういう立場になるから、この子にこういう風にかかわっていこう」とか、「1年後にこうなっていてほしいから、こういう風に接していこう」ということを話し合い、決めていくのです。家族内での役割分担なども検討事項になってくるでしょう。教職員にご相談をいただいても大丈夫です。

保護者は、子どもに「健やかでたくましく、優しく成長して行ってほしい。そして社会に出た時は、その荒波の中でもたくましく生きて行ってほしい。」と願うものです。しかし、これを実現させるためには、家族間や学校家庭間の中で、計画的かつ協力協働体制をもって温かい家庭作りに取り組み、子どもに今の課題を乗り越えられるよう支えていかなければなりません。中学生期の今こそ段階的な支援が必要なのです。

どうぞ、平成30年度がお子様やご家族にとって、素晴らしい飛躍の年となりますよう、振り返りと準備を進めて行ってほしいと思います。

私、野口の家でも、来年度長女が中2になります。現在、妻を中心に平成30年度教育家庭の作成中です。



宇都宮市立鬼怒中学校 028-661-6337
生徒指導担当 野口 幹